

2018年12月

長野電鉄沿線の地域活性化

経営学部 経営学科 梅村ゼミ
B5R11125 西沢 早織

【卒業論文概要】

近年、地方を走る「地域鉄道」という鉄道は存続の危機に晒されている。しかし、それぞれの地方にとって鉄道は人々の足となり、必要不可欠な存在である。

本論文の目的は、長野電鉄を例とし、赤字時代を乗り越え、現在の長野市を支える存在となった経緯を調べ、地域鉄道の重要性を明らかにすることである。

まず、長野電鉄で働いている職員の方々に協力してもらい、長野電鉄について情報を集めた。過去赤字経営の時代が続いていたが、赤字の原因であった路線を手放し、子会社との連携、イベント列車の運行等を行った結果、経営状況はよくなり、今では多くの利用客がいる。

長野電鉄のように赤字経営の時期が続き、存続の危機にある地域電鉄は全国に数多くある。しかし、「人々を運ぶ」という鉄道本来の役割だけでなく、沿線地域と協力し、観光客を呼び込むことや観光列車を走らせることで危機を乗り越え、沿線地域の活性化に大きく関わり、地域を支える存在になることができる。